

**立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）**

**個人研究**

**2021年度研究成果報告書**

|                |   |       |
|----------------|---|-------|
| 研究代表者          | 所属部局・職名                                 | 氏名    |
|                | 異文化コミュニケーション学部・教授                       | 武田珂代子 |
| 研究課題           | 太平洋戦争・日本占領期における<br>宣教師・キリスト教信者による翻訳通訳活動 |       |
| 研究期間           | 2021年度                                  |       |
| 研究経費<br>(1円単位) | (支出金額) 435,000円 / (採択金額) 435,000円       |       |

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと。)

本研究は、連合軍の太平洋戦争・日本占領遂行に関わった離日キリスト教宣教関係者および日本人キリスト教信者による翻訳通訳活動を対象とするものである。主に、連合軍の翻訳者、通訳者、日本語学校教師として対日諜報活動や日本占領の準備に関わり、戦後は占領軍政に従事した連合軍宣教関係者の背景、任務、戦争・占領に対する態度を調査した。布教や信仰目的の外国語習得が戦争時の翻訳通訳活動につながる事例を示すとともに、米国政府が対日戦争・占領遂行のために離日宣教関係者が提供する情報や日本語能力を活用した状況、また、宣教活動再開に向けた戦争早期終結のために宣教師が積極的に戦争協力をした状況に光を当てることができた。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 戦時通訳・翻訳 ] [ キリスト教宣教師 ] [ 太平洋戦争 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)**【本研究の目的】**

本研究は以下の目的に従って実施された。

- ① 太平洋戦争・日本占領中に連合軍の翻訳者、通訳者、日本語教師、情報提供者として活動した離日キリスト教宣教関係者について、その背景、任務、戦争・占領に対する態度などを調査する。
- ② 戦後の連合軍による日本占領活動や戦犯裁判に翻訳者、通訳者として関わった日本人のキリスト教信者について、その背景、任務、占領に対する態度などを調査する。
- ③ ①と②の結果に基づき、「布教や信仰目的の外国語習得と翻訳通訳活動」と「戦争遂行のための国家による外国語話者の動員」という議論の中で、これらの宣教関係者・キリスト教信者および彼らの活動がどのように位置づけられるかを考察する。

**【研究方法】**

本研究では、主に一次・二次資料の調査・分析を行い、関連分野の専門家との意見交換、招待講演や学会での研究発表に対するフィードバック、提出した論文の査読者フィードバックをもとに、研究目的に沿った考察を深めた。

一次資料の多くは、フーヴァー研究所ライブラリー&アーカイブス、米国防総省語学学校外国語センター (DLI) アーカイブス、英公文書館、国会図書館、立教大学図書館、四国学院大学図書館、香川大学図書館、山口大学図書館などに所蔵されたもので、特に、フーヴァー研究所所蔵のスタンフォード大学民政訓練学校資料、DLI 所蔵の米陸軍情報部語学学校資料を重点的に調査した。また、フーヴァー研究所のキュレーターやフェロー、DLI の部隊史専門官、さらに立教展示館の関係者から、本研究に対する貴重な情報提供や助言を受けた。さらに、米海兵隊通訳官として日本人捕虜の尋問に関わった離日宣教師、シャーウッド・F・モランが戦時・占領中に書いた妻宛の手紙をモランの家族から入手し、離日宣教師の対日戦争・占領に対する態度を考察する上で一助とした。

**【研究成果】**

本研究で明らかになった主な点は以下の通り。

**①米国関係****<戦争準備>**

- ・米海軍が 1936 年に作成した日本語の翻訳者・通訳者候補のリストに挙げられた 17 人のうち、離日宣教師が 6 人、宣教師家族が 3 人含まれていた。彼らの態度は、「戦争に全面的に参加する」「戦闘以外など限定的に参加する」「戦争参加は拒否する」など、さまざまだった。
- ・宣教師一家のもと日本で生まれ育ったマッカラムは海軍情報部士官として日米開戦を促す提案書を作成するとともに、海軍日本語学校の設立を指示。教師の 1 人は宣教師一家のもと日本で生まれ育ったウーナン。
- ・宣教師一家のもと日本で生まれ育ったシバリーは海兵隊日本語学校を指揮。
- ・宣教師の息子で日本育ちの W・H・ムーアは陸軍士官として日系二世の活用を主張し、陸軍日本語学校設立を準備。

**<開戦後>**

- ・日本で 25 年宣教活動をした S・F・モランは海兵隊に志願し、日本人捕虜の尋問で通訳。日本人捕虜の人道的な扱いを提唱する文書を作成。イラク戦争時にその文書が注目された。
- ・日本生まれの宣教師、マカルピン夫妻は海軍日本語学校で教師。
- ・宣教師一家のもと日本で生まれ育ったケーリは海軍日本語学校を卒業後、日本人捕虜の尋問で通訳。
- ・S・F・モランの息子で日本生まれの S・R・モランは海軍日本語学校を卒業後、言語官として暗号解読に従事。
- ・スイフトとバーデン (宣教師の息子として日本で生まれ育つ) は、日系二世のみで始まった陸軍日本語学校に真珠湾攻撃後、参加した白人 2 人。卒業後、戦地で二世語学兵の監督。
- ・宣教師一家のもと日本で生まれ育ったライシャワーは、陸軍信号隊で日本語翻訳者を養成するとともに暗号解読、翻訳に従事。助手 3 人も宣教関係者。
- ・立教で教鞭をとったラッシュは陸軍情報部語学学校でリクルート活動に従事。リクルートしたクヌーテン (日本で生まれ育った宣教師の娘) は婦人陸軍部隊の日本語言語官で唯一の白人。
- ・日本占領準備のためにスタンフォード大学に設置された民政訓練学校 (CATS) のハンドブック作成と講義準備のために 111 人の米人離日宣教師が報提や助言を提供して協力。立教関係者 (ライフスナイダー、タッカーなど) も参加。

**研究成果の概要** (つづき)

## &lt; 占領期 &gt;

- ・上記の言語官を含む、離日宣教関係者が占領軍の言語官として日本で活動。原爆傷害調査などに参加。
- ・これらの言語官が陸軍・海軍を除隊後、日本で宣教活動を再開した事例は少なくない。
- ・日本生まれの宣教師、L・W・ムーアは戦時中、陸軍情報機関の翻訳を指揮した後、占領期には陸軍第6軍の言語部部長。東京裁判の言語裁定官を務めた。除隊後は、米軍払い下げのジープに乗って四国で宣教活動を再開。

## ②カナダ関係

関西学院大学などで教鞭をとった離日宣教師のマッケンジー、ノーマンがそれぞれカナダ陸軍日本語学校の校長、教師を務めた。戦後は両者とも日本で宣教活動を再開。また、スタンフォード大学CATSからの呼びかけ(1944-45年)に対し、カナダ在住の離日宣教師19人が日本社会・日本人に関する知見、占領に関する助言を積極的に提供した。

## ③英国関係

在日英国大使館が1937-39年に作成した、日本(外地含む)在住の英連邦民の日本語通訳者リストを作成。計91人中、31日は宣教関係者。うち21人は台湾・淡水在住でカナダ人・イギリス人長老派宣教師。女性14名を含んでいた。ただし、これらの宣教師が実際に通訳者になったかは不明。また、台湾出身の神学生(黄彰輝)がロンドン大学東洋アフリカ研究学院の戦時日本語プログラムの教師を務めた。

## ④米軍内の朝鮮人・台湾人

日本の植民支配下、朝鮮人・台湾人が米国に留学できるほとんど唯一の道は教会の支援を受け、神学を専攻することだった。植民言語政策で日本語教育を強制されていたこれらの朝鮮・台湾出身キリスト教信者には、日本語を話せる非日本人として、FBI、米陸軍情報部、日系アメリカ人強制収容所などで通訳・翻訳に従事したり、CATSなどで日本語教師を務めたりする者がいた。

## ⑤日本人キリスト教信者

立教生だった岡孝は、クリスチャンサイエンスの信者で、同教会の松方ハル(のちのライシャワー大使夫人)の紹介を通して、東京裁判国際検察局で翻訳、裁判の通訳に従事した。また、日本占領期の検閲局で翻訳・検閲官を務めた日本人の手記やインタビューなどにおいて、ミッションスクールで英語を学んだこと、キリスト教信者であることなどが確認できる事例があった。スタンフォード大学CATSが収集した離日宣教師からの情報には、占領軍・アメリカ人に最も協力的で、信頼できる唯一の日本人はキリスト教信者であるとして、そうした人物のリストを提供するものが10件以上あった。

本研究で明らかになった点に対する考察の要約は以下の通り。

日米開戦前後に離日し北米に戻った宣教師とその家族は、米軍にとって、信頼できる白人の情報提供者、日本語言語官、二世語学兵の監督者といった役目を担える貴重な存在だった。そうした言語官やスタンフォード大学CATSに協力した130人の離日宣教師の言説を分析すると、全般的に、「神に仕えることと国家に仕えることに矛盾はなく、米国の国益とキリスト教の価値観は絡み合っている」「戦争は目的のための手段であり、日本を打ち負かせばアジアにおける宣教活動を守り、再開させることができる」「日本人に布教することと日本の軍国主義と戦うことには矛盾はなく、悪いのは軍国主義者」といった考えが浮かび上がる。また、日本軍による残虐行為の犠牲となった中国人、朝鮮人に対する同情や支援を示す声も多かった。

本研究の調査・分析結果は、宣教師が現地語や現地事情に関する知識に基づき、本国の政府、軍隊、貿易商による植民地・帝国主義的進出の先鋒的・協調的な役割を果たしたという16世紀から20世紀初頭にかけての歴史に照らして語るよりも、米軍内の人種と信用の問題、日本占領政策における元宣教師やキリスト教信者の影響力、米国政治とキリスト教、「脱」宣教師に動機づけられた戦後の日本研究や地域研究の流れ、といった枠組みから議論すべきだと考える。

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①武田珂代子 (2021) 「日本海軍「甲事件」「乙事件」と米日系二世語学兵一戦時諜報活動と翻訳が交わる時」『中央公論』2022年1月号、78-85頁。【招待あり】

(米陸軍情報部語学学校の宣教関係者に言及)

② Takeda, K. (2022, forthcoming). Interpreting with “Human Sympathy”: Missionaries in Uniform during the Pacific War and Occupation of Japan. In Baigorri-Jalón, J., & Ruiz Rosendo, L. (Eds.), *An Atlas of the History of Interpreting: Voices from around the World*. John Benjamins.

(太平洋戦争・日本占領期に連合軍の日本語翻訳者・通訳者・教師となった離日宣教関係者に関する論文。通訳史の書籍中の分担章。)

④【招待講演】

「太平洋戦争：情報提供者としての離日宣教師」インテリジェンス研究所第38回諜報研究会。2021年10月9日。(オンライン)

(太平洋戦争中に連合軍に日本語通訳者・翻訳者・教師・情報提供者となった離日宣教師に関する講演)

「捕虜虐待と通訳者：英軍戦犯裁判における通訳者の有罪判決をめぐって」POW研究会オンライン講演会。2021年12月4日。

(太平洋戦争中の日本兵捕虜の尋問における通訳をした離日宣教師・宣教師の息子に言及)

「国防言語要員の短期訓練：太平洋戦争の事例を中心に」陸上自衛隊情報学校第2教育部セミナー。2022年2月10日。(オンライン)

(日本占領準備のためのスタンフォード大学民政訓練学校における日本語訓練と離日宣教師の関与に言及)

“Missionaries and Nisei as “Informants” for the Civil Affairs Training School at Stanford University (1944-1945).” *The Fanning the Flames Speaker Series*. Hoover Institution Library & Archives. 2022年3月18日。(オンライン)

(日本占領準備のためのスタンフォード大学民政訓練学校に関与した離日宣教師に言及)

【学会研究発表 (査読あり)】

「太平洋戦争・日本占領期におけるキリスト教宣教関係者の翻訳通訳活動」日本通訳翻訳学会第22回年次大会。2022年9月4日。(オンライン)

(太平洋戦争・日本占領期における離日宣教師・宣教師家族と日本人キリスト教信者による翻訳通訳活動に関する研究発表)

“Repatriated missionaries as Allied military linguists during the Pacific War.” ATISA X (米国翻訳通訳学会第10回コンファレンス) (2022年3月31日～4月3日)。オンライン研究発表(2022年4月3日)。

(太平洋戦争中に連合軍の日本語翻訳者・通訳者・教師として働いた離日宣教師に関する研究発表)

【報告書】

「スタンフォード大学民政訓練学校資料 (フーヴァー研究所ライブラリー&アーカイブス) と米陸軍情報部語学学校資料(米国防総省語学学校外国語センターアーカイブス)中の立教関係資料」

(当該資料のPDFとともに、立教学院展示館に提出)